



<目次>

1. 絵本で知る世界の国々:第 3 版改訂への取り組み
2. 第 41 回 (2021 年) 児童図書館員養成専門講座が終了しました。
3. 図書館員のための子どもの本の書評講座をはじめて開催しました
4. 穴戸寛さんと「子どもに好かれる 10 か条」 島 弘



絵本で知る世界の国々:第 3 版改訂への取り組み

IFLA 国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会では、絵本を通じた国際理解の促進のため、図書館司書をはじめとする子どもと本に関わる人々が勧める、世界の絵本のリストを作成しています。

今回、改訂第 3 版を作成することにあたり、子どもと本に関わる皆様にリストに掲載すべき絵本を推薦いただき、日本図書館協会児童青少年委員会と、IFLA 国際図書館連盟児童・ヤングアダルト図書館分科会国内常任委員が協力して取りまとめを行いました。

リストに掲載する絵本の基準は、次のとおりです。

- 0 歳から 18 歳までの子どもたちに適していること
- 時の試練に耐えた「古典」、または「これから古典になる」本をそれぞれバランスよく含むこと
- その国の出版文化の粋を表すものであること
- 原書がその国で出版され、その国の言語で書かれていること
- 良質で高い出版基準を満たし、声に出して読んで優れていること
- 文と絵が互いに補完し合っていること。しかし、文字なし絵本も除外しない
- 肯定的なメッセージを表していること
- 現在も刊行され、購入できること
- 物語絵本、昔話絵本のほか、赤ちゃん絵本、科学絵本、写真絵本、文字なし絵本などにも配

慮すること

- 平和や SDGs を意識した絵本を含めること
これらを踏まえて、10冊の絵本を選出しました。

ぐりとぐら	中川李枝子／作 大村百合子／絵	福音館書店
もこもこもこ	谷川俊太郎／作 元永定正／絵	文研出版
わたしのワンピース	西巻茅子／著	こぐま社
とべバッタ	田島征三／作	偕成社
かさじぞう	瀬田貞二／再話 赤羽末吉／画	福音館書店
11ぴきのねこ	馬場のぼる／著	こぐま社
さがしています	アーサー・ビナード／作 岡倉禎志／写真	童心社
さわるめいろ	村山純子／著	小学館
くだもの	平山和子／作	福音館書店
旅の絵本	安野光雅／〔著〕	福音館書店

推薦への応募総数は62件(個人・グループ含む)でした。推薦へのご協力、ありがとうございました。



第41回(2021年)児童図書館員養成専門講座が終了しました。

第41回(2021年)児童図書館員養成専門講座が、前期は6月28日～7月3日、後期は9月27日～10月6日(9月30日は休み)の日程で、日本図書館協会研修室にて開講されました。

受講生16名全員がすべての課題および講座を修め、修了証を受け取りました。修了生は以下の通りです。

有川裕子(横浜市中図書館)、飯塚裕美(東京都立多摩図書館)、井口景子(福岡県立図書

館)、市川祐子(安城市図書情報館)、江原未菜子(調布市立図書館緑ヶ丘分館)、オニール原田芽(練馬区立練馬図書館)、川崎裕子(名古屋市鶴舞中央図書館)、小林沙織(福島県立図書館)、鹿野詩乃(さいたま市立武蔵浦和図書館)、槌谷弘美(豊中市立野畑図書館)、中澤晴香(高知県立図書館)、服部紗香(都城市立図書館)、平山桂子(川崎市立高津図書館)、森奈穂子(埼玉県立久喜図書館)、山口敦子(中野区立野方図書館)、横多綾(佐賀県立図書館)(五十音順・敬称略)。

受講生の皆さんの今後の活躍を期待します。

当講座は、2022年も開催する予定です。『図書館雑誌』(2022年2月号を予定)および児童青少年委員会HPにて告知をしますので、そちらをご確認の上、お申し込みください。

今年度のカリキュラム

前期

6月28日	月	開講式	島 弘(児童青少年委員会委員長)
6月29日	火	児童奉仕の運営と年間計画	川上博幸(元枚方市立津田図書館)
6月30日	水	児童サービスの実際(1) 図書館の魅せ方	押樋良樹(押樋デザイン製作所)
7月1日	木	児童図書館員の仕事 おはなし・ブックトークの実演/見学	張替恵子(東京子ども図書館) 東京子ども図書館
7月2日	金	児童サービスの実際(2) 選書・蔵書構成	杉岡和弘(姫路市立図書館白浜分館)
7月3日	土	児童図書の編集・出版	千葉 美香(偕成社)
〃		脳科学から見た子どもの読書の重要性	酒井邦嘉(東京大学)

後期

9月27日	月	児童サービスの実際(3) ストーリーテリング	加藤節子(東京子ども図書館)
9月28日	火	児童サービスの実際(4) 科学の本と科学あそび	市川美代子(科学読物研究会)
9月29日	水	児童資料(1) 絵本	依田和子(よこはまライブラリーフレンド)
10月1日	金	児童サービスの実際(5) レファレンス	尾崎尚子(さいたま市中央図書館)
10月2日	土	児童サービスの実際(6) 乳幼児サービス	島本まり子(浦安市教育委員会)
10月3日	日	児童資料(2) 外国の児童文学	早川敦子(津田塾大学)
10月4日	月	児童サービスの実際(7) ブックトーク	杉山きく子(元東京都立多摩図書館)
10月5日	火	児童資料(3) 日本の児童文学 児童サービスの実際(8)	宮川健郎(大阪国際児童文学振興財団)
10月6日	水	図書館利用に障害のある子どもたちへのサービス	山内薫(元墨田区立図書館)
10月7日	木	研修の自己評価とまとめ	島 弘(児童青少年委員会委員長)



図書館員のための子どもの本の書評講座を開催しました

11月8日（月）に、日本図書館協会児童青少年委員会主催による、「図書館員のための子どもの本書評講座」の第2回対面講義を実施しました。講師は、川上博幸氏（児童青少年委員会委員・元枚方市立津田図書館）。参加人数は15名でした。

今講座は、書評を書くことを通じて児童資料の評価方法を学ぶことを目的に、メールとテキストによる遠隔講座（第1回）と対面による講義（第2回）の2回に分けて開催されました。

<第1回遠隔講座について>

書評に関する考え方やいろいろな形の書評などをテキストから学び、課題に取り組んでもらいました。課題として、(A) 児童読物、(B) 主題図書、(C) 絵本の各2冊から、受講者が任意に各区分1冊ずつ、計3冊を選び、書評（800字）を書いてもらいました。課題をこなす中で生じた疑問については、メールで対応しました。

課題作品

- A 1 『ガラスの梨—ちいやんの戦争—』 越水利江子作 ポプラ社
- A 2 『彼方の光』 シェリー・ピアソル作／斎藤倫子訳 偕成社
- B 1 『ひきさかれた大陸—大陸移動説をめぐる新しい地球の科学』 小島郁生・加藤秀著 偕成社（または『ひきさかれた大陸』 偕成社文庫）
- B 2 『太陽ってどんな星？』 宮原ひろ子著 新日本出版社
- C 1 『はじめてのかり』 吉田遠志絵と文 絵本塾出版（またはリブリオ出版）
- C 2 『はたらきものじよせつしゃ けいていー』 バージニア・リー・バートン文 絵 いしいももこ訳 福音館書店

<第2回対面による講義について>

対面による講義では、午前中に質疑応答と講義を行いました。質疑応答の中では、「書評と紹介文のちがいはなにか」「他人の書評に対する評価をどのようにするべきか」「子ども向けの書評、大人向けの書評に違いがあるのか」などの質問が挙がり、川上講師からは経験に基づいた回答やアドバイスがありました。その後は受講者が書いた書評から講師が選んだもの、A～Cにつき各3本ずつ17書評を資料配布し、ひとつずつ講評しました。講義内でも質疑応答がなされ、内容の濃い講義になりました。添削、講評希望の受講生には、添削し

た課題を返却しました。

川上講師からは「(書評は) 個性的な読みを大切にしながら、この本(著作)はこういう内容で、このように評価しますというように、著作品の特徴や本の良し悪しを、読んでいない人に伝える事が主たる役割です。」

「書評を書くことに取組まなかったら、読み物も科学書も絵本も何度も何度も内容を確認しないでしょう。何度も確認することにより、内容を深く吟味します。このことによって、読解力が向上すると考えます。苦心がないと上達しにくいのです。」と講評がありました。

受講後の感想として、「提出者全員の書評がそのまま配布されたのがよかった」「自分の書評を添削してもらい、具体的にどうすればよいのかがわかった」などがありました。

書評講座は、今後も開催される予定です。



< 追悼 >

宋戸寛さんと「子どもに好かれる 10 か条」

児童青少年委員会
島 弘

長く児童青少年委員会委員を務められた宋戸寛さんが、2021年6月23日にご逝去されました。享年83歳とのことでした。ご冥福をお祈りいたします。

宋戸さんは、児童青少年委員会の委員を1991年度から2008年度までの17年間勤めて頂きました。その間、宋戸さんは都立中央図書館(一時期は都立城北養護学校(当時))の職員、文化女子大学(現:文化学園大学)の教員、同大学の図書館長をされていました。

私は委員会の会議でしかお目にかかることはありませんでしたが、いつも笑顔を浮かべながら低姿勢で語られるお姿から、芯のお強い方なのだろうと思っていました。

宋戸さんは、委員会主催の児童図書館員養成専門講座の第1期の修了生でした。『図書館雑誌』(1997年5月号)に「児童図書館員養成講座 一児童青少年委員会のメンバーとして」と題し、第1期の養成講座の様子、その後の受講修了生のアンケートを紹介され、研修の大切さ、専門職の必要性を述べています。

また、宋戸さんは、養成講座の「レファレンス」の講師を長く担当されました。宋戸さんの物腰の柔らかさとの確かなアドバイスから随分とファンが多かったと聞いたことがありました。私は宋戸さんの講座を受けたことはありませんでしたが、多くの受講生から、宋戸さんが考えられ、紹介された「子どもに好かれる10か条」を大切にしていると聞いたことがあります。

委員仲間にご相談したところ、宋戸さんご本人が、それを文化学園大学 国際文化・観光学科プロ

グ“小平の風”(<https://bwukokusai.exblog.jp/13187915/>)に紹介されていることがわかりました。

「子どもに好かれる 10 か条」

- ①スマイルで迎えること。(微笑は魔法のパスポートです)
- ②名前を覚えること。(貸し出しカードで名前を確認「Aくん、この本は面白かった?」子どもは自分の名前を覚えてくれたと知って嬉しいのです)
- ③聞き上手になること。(こちらは相槌をうつぐらいにとどめ、子どもの話を真剣に聴いてあげる)
- ④どの子にも公平に対応すること。(常連の子どもとばかりおしゃべりすることを控え、初めて来館した子どもには特に気を遣うこと)
- ⑤関心を示すこと。(「へえー、すごいことを調べているんだね」)
- ⑥長所、努力を認めてほめてあげること。(「よく読んだね、こんなに長いお話を」と)
- ⑦悪い噂をしないこと。(噂は張本人の耳に必ず伝わるもの)
- ⑧あやまること。(子どもの話を取り違えたり、間違っって注意したときは素直に謝る)
- ⑨感謝すること。(本を書棚に戻すのを子どもが手伝ってくれた時)
- ⑩ユーモアの感性を培うこと。(時には軽い駄洒落や軽口をたたく)

の 10 項目です。

児童図書館員が忙しさの中で忘れがちな大切な心得であると思います。この 10 か条を私たちは引き継いでいきたいと思います。

宍戸さん、ありがとうございました。

News Letter no.28 ニュース・レター

編 集:鹿野詩乃、高橋樹一郎

発行者:島 弘

発 行:日本図書館協会児童青少年委員会

日本図書館協会児童青少年委員会事務局 川下美佐子

Tel.03-3523-0816/Fax.03-3523-0841

E-mail: jidou@jla.or.jp